

## 第4回 トラック産業の将来ビジョンに関する検討会の概要について

開催日時：平成22年7月7日（水）15：30～17：30

会 場：三田共用会議所 第4特別会議室

- 中小企業基盤整備機構から事業の概要についてご説明いただいた後、中間整理案について事務局より説明を行い、フリーディスカッションを行った。
- 委員からは、次のような意見があった。
  - ・秩序ある競争に向けて、規制緩和後の克服すべき課題について、方向性を定めしっかり取り組んでいただくことを期待している。
  - ・日本のトラック輸送は、単に物を運ぶだけではなく、顧客企業や消費者に正確さや時間指定などの便利さも届けている。こうしたサービスをいち早く海外に展開することにより、日本の国際競争力の強化にも繋がるのではないか。
  - ・今後とも、環境、安全等やCSR活動などを積極的に展開し、トラック産業が担っている役割にふさわしい社会的な評価が得られるような業界になっていただきたい。
  - ・トラック業界では、「競争」、「経営」、「安全」が表裏一体に連関しており、これらの課題を解決していくことが、将来ビジョンを実現していくため、非常に大事なことではないか。
  - ・サプライチェーン全体で付加価値が高まった場合に、その高まった果実をどの様に関係者間で分配するのかという視点が重要である。
  - ・今後、ワーキンググループでの議論が非常に重要であり、課題克服のための具体的な方策に期待している。
  - ・実運送事業者の現状を踏まえ、実運送事業者をいかに育て、収益力を高めていくか実運送事業者が元気になる様な将来ビジョンにしていきたい。
  - ・トラック運送事業の社会的規制を守るため、地方適正化実施機関が果たすべき役割が今後ますます重要。そのためにも運輸振興助成金制度の確保は重要である。
  - ・Gマーク、グリーン認証は、荷主の理解が進んでいる一方で、市町村等の役所の理解が及んでおらず料金だけの入札になっており、こうした事態の改善が必要ではないか。
  - ・中型免許制度が導入されたが、中型免許を取得しようとする若者は減少しており、将来のドライバー確保は非常に不安である。他省庁の問題かもしれないが今後検討が必要と考える。
- 意見交換終了後、中間整理案が了承され、野尻座長、津川国土交通大臣政務官からご挨拶があった。

<文責：事務局>